

第4学年 「読書発表会を開こう」
走れ (村中 李衣) 指導者名 北山 真由美

1 単元について

教材文について

- ・ 時間の経過が分かりやすく、「はじめ」「中」「おわり」の構成をとらえやすい教材である。
- ・ 中心となる人物ののぶよの視点から出来事が描かれているために、心情描写や行動描写から、中心人物の気持ちが最も大きく変容した場面をとらえることのできる教材である。
- ・ 物語の中心となる人物がだれかを読み取り、中心となる人物の変容を読み取る力をつけるのに適した教材である。

児童の課題について

(読解カタイム, 評価問題より)

- ① 何を根拠として場面を分けるのかを、説明する力が弱い。
- ② 心理描写を基に中心人物の性格を想像したり、行動描写を基に気持ちの変化を想像したりする力が不十分である。
- ③ 友達との意見の交流が一面的に終わり、いろいろな感じ方を受け入れるよさを味わえていない。

指導改善のポイント

課題改善のために

- ① 時を表す叙述や、登場人物の行動に着目させ、場面の移り変わりを「はじめ」「中」「おわり」と大きくとらえさせる。
- ② 中心人物の行動や会話などの叙述を手がかりに、物語全体を通して中心人物の心情の変化について考えさせる。
- ③ 心に強く残ったことを中心に、物語の叙述を基に、自分の経験と照らし合わせて文章を書かせ、友達と交流することで、自分と友達との感じ方の違いに気付かせる。

読みを深めるための発問の工夫

- ・ 場面と場面の気持ちの変化を比較させる等、文章全体を読ませる発問をする。
- ・ 登場人物の気持ちの変化を読み取らせる活動では、行動や心情の表れた叙述を基に考えさせるため、効果的な補助発問や繰り返し発問をする。

単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「読書発表会を開く」ことを位置付けた。ここで取り上げる読書発表会は、物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているか、自分の経験などどう関連しているかを明らかにしながら発表することを位置付ける。このことで、「登場人物の性格や気持ちの変化などについて、叙述を基に想像して読む」(C読むことウ) ことを確実に実現できるようにしている。

単元の目標

国語への関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
○ 物語に興味をもち、人物に気を付けて楽しんで読もうとする。	○ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むことができる。(ウ) ○ 物語を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(オ)	○ 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。 (イ (ア))

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○ 読んで感じたことや考えたことを明らかにしながら読もうとしている。	○ 場面の移り変わりに注意しながら、のぶよの性格や気持ちの変化について、家族の関わりや叙述を基に想像して読んでいる。(ウ) ○ 物語を読んで感じたことを発表し合い、友達との感じ方の違いに気付いている。(オ)	○ 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付き、文や文章を読んでいる。 (イ (ア))

2 指導と評価の計画 (全9時間)

次	学習内容 (時数)	評 価		
		単元を貫く 言語活動	評価規準 (評価の観点)	評価方法
一	<ul style="list-style-type: none"> 教師の示した「読書発表カード」により、単元の学習を通して行う言語活動についての見通しをもつ。 教材文「走れ」を通読し 心に残ったことを中心に初発の感想をまとめ、交流する。 並行読書の方法や、さまざまな本を読むことを知る。 <p>(1)</p>	<p>「人物の様子や気持ちを考えながら物語を読み、感想を述べ合う。」(言語活動例ア)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習のゴールを理解し、見通しをもって学ぼうとしている。 物語に興味をもち、中心となる人物に気を付けて読もうとしている。 (関) 言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (言) 	ノート 発言内容 行動観察
二	<ul style="list-style-type: none"> 各場面の出来事確かめ、内容の大体をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 各場面の出来事をもとに、文章全体を3つに分ける。 </div> <p>(1)</p>		<ul style="list-style-type: none"> 登場した人物や起こった出来事確かめ、内容の大体を読み取っている。 (読) 	ノート 発言内容 行動観察
	<ul style="list-style-type: none"> 場面の展開に注意しながら人物の気持ちを読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 登場人物の行動や会話などの叙述を基に、中心人物の気持ちの変化を読み取る。 </div> <p>(4)</p>		<ul style="list-style-type: none"> 人物の行動や会話などの叙述を基に、場面の展開に沿って人物の気持ちを読み取っている。 (読) 	ノート 発言内容 行動観察
	<ul style="list-style-type: none"> のぶよの気持ちが大きく変化したきっかけと理由を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 中心人物の会話や行動の叙述をもとに、気持ちの変化を物語全体を通して考える。 </div> <p>(1)【本時7/9】</p>		<ul style="list-style-type: none"> 場面と場面を関連付けて読み、物語全体を通して、中心となる人物の気持ちの変化を読み取っている。 (読) 	ノート 発言内容 行動観察
三	<ul style="list-style-type: none"> 並行読書してきた本の中から、中心となる人物の人物像や、大きく変わった部分について考え、カードに書く。 <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書発表会を開き、読んだ本について感想を述べ合う。 <p>(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 物語を読んで感じたことを話し合い、友達との感じ方の違いに気付いている。 (読) 	読書感想カード 発言内容 行動観察	

※□は、課題となる力を特に育成する時間

3 本時の学習

(1) 本時の目標

わりばしの意味や役割について考えることで、のぶよの気持ちの変化した理由を考えることができる。

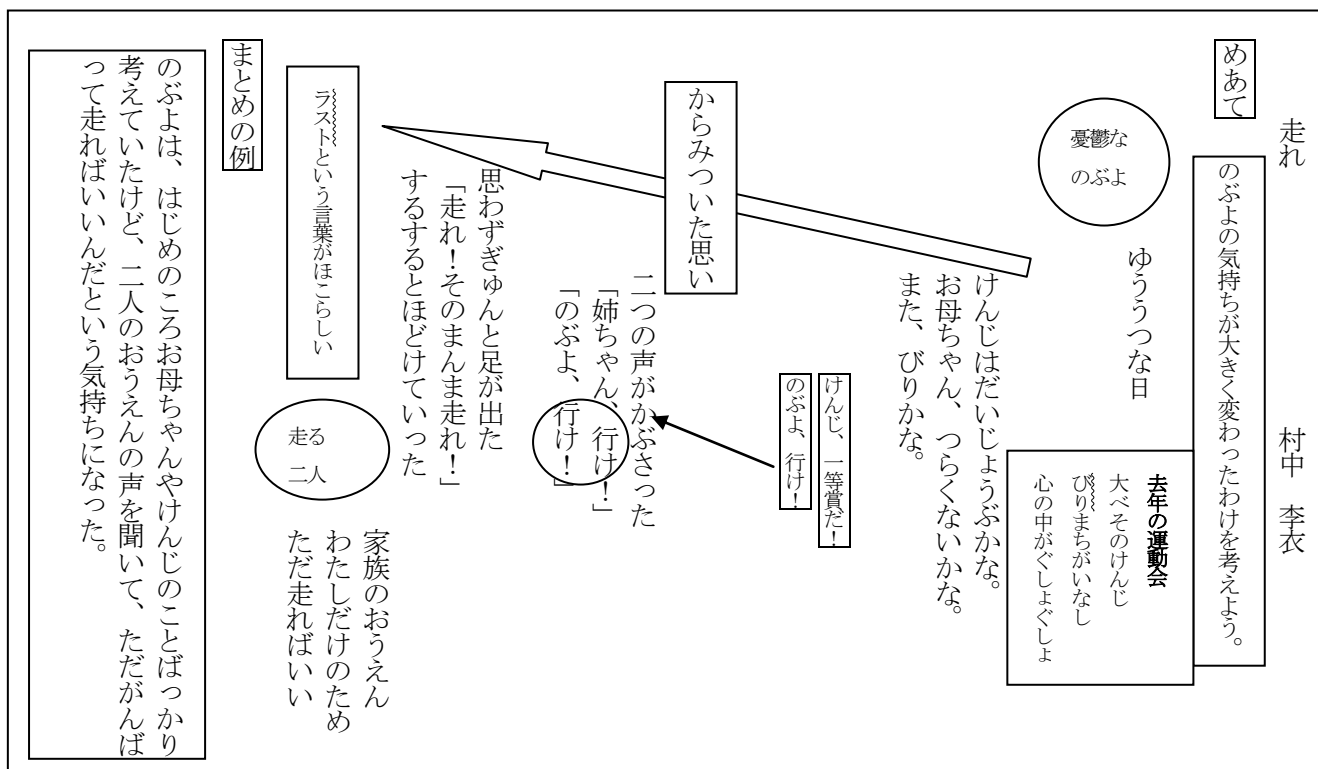
(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1 前時までの学習を振り返る。 2 本時のめあてを確認する。	○ 国語コーナー等で前時までの学習を振り返り、本時の学習見通しをもたせる。	
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> のぶよの気持ちが大きく変化した理由を考えよう </div>		
3 学習場面を音読する。 (p.50 の 4～) 4 のぶよの気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 体にかみついていていろんな思いはなぜ、するするとほどけていったのでしょうか。 </div> C お母ちゃんとけんじの二つの声が聞こえたから。 C 二人が仲良くなったことが分かったからです。 C お母ちゃんとけんじの気持ちが一つになったことがうれしかったから。 5 わりばしの意味を考える。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> のぶよはなぜ「行け！」という二人の言葉で、気持ちが変わったのだろう。 </div> C 二人とも「行け！」と言っていることがのぶよはすごく嬉しかったと思う。 C 「かぶさった」と書いてあるので、二人の気持ちの一つになったことがわかるから。 C 「かぶさった」という言葉で、けんかしていた二人が一緒にいるということがわかるから。 C 二人がのぶよのことだけ考えていることがわかるから。 6 本時の学習を振り返る。 7 自分の読んでいる本の登場人物の変化のきっかけを考える。	○ どこで中心人物の気持ちが変わったのか考えながら読ませる。 ○ 物語のはじめと終わりののぶよの気持ちを板書し、変化のきっかけについてとらえさせる。 ○ 「からみつく」「ほどける」という言葉から、のぶよの走りを重いものにしてきた気持ちが、軽くなったことに気付かせる。 ○ 「行け！」の声援のきっかけになった出来事を前の場面から考えさせる。 ○ 「行け！」の言葉がどこから出てきたことかを読み取らせ、わりばしの言葉を読んだのぶよの気持ちを想像して、ノートに書かせる。 ○ けんじの気持ちを変えたわりばしが、のぶよにも影響したことを話し合いによって考えさせる。 ○ 二人とも「行け！」と言っていることに気付かせ、そのことがのぶよの気持ちを後押ししたことに気付かせる。 ○ 場面と場面を関連付けて読み中心人物の気持ちの変化のきっかけと理由をつかませる。 ○ 「はじめ」と「おわり」ののぶよの気持ちの変化について、自分の体験を入れながらまとめさせる。 ○ 中心人物の会話や行動をもとに、気持ちの変化のきっかけとなるところに、黄色い付箋を付けさせその理由を書かせる。	B 「はじめ」と「おわり」の母親、弟との関わりをとらえて、のぶよの気持ちの変化の理由を考えて書いている。 (ノート・発言内容) C の児童への手立て のぶよの気持ちの変化の理由がつかめない児童には、板書を手がかりに書けるように声をかける。

物語を読む10の観点 教材分析表

10の観点		教材文の分析
設定	1 時・場所	春の運動会・のぶよの家, 学校
人物	2 登場人物	のぶよ, けんじ, お母ちゃん
	3 中心人物	のぶよ
視点	4 語り手	三人称限定視点
構成	5 出来事	運動会に母が遅れたため, 母, のぶよ, けんじの気持ちがすれちがう。
	6 大きく変わったこと	憂鬱でたまらなかつたのぶよの短距離走への思いが, 家族の声援に押され, 自分らしく走ろうという気持ちに変わった。
	7 三部構成 (はじめ・中・おわり)	1 のぶよが, 去年の運動会のことを思い出す場面 2 のぶよが, けんじを追いかけてわりばしを見せる場面 3 のぶよが, すがすがしい思いで短距離走を走る場面
関係付ける	8 お話の図 人物関係図	
	9 一文で書く	家族のそれぞれの思いを感じ取り憂鬱な気分であったのぶよが, 「行けっ!」「走れ!」という声援を受けることによって, 誇らしい気持ちに変わる話。
	10 おもしろさ	家族のことで思い悩んでいたのぶよが, 家族に後押しされて成長していく。

板書計画



物語の題名

モチモチの木

作者名

斎藤隆介

この物語を選んだ理由

この物語を選んだ理由は、豆太の行動が勇気があると思ったからです。

中心人物について

中心人物は 豆太という男の子です。

豆太はおくびぼうで、おじいさんと二人でくらしています。

あらすじ(はじめとおわりの変化)

豆太ははじめ一人で、おしっこに行けないおくびぼうな子でした。でもおじいさまを助けるため夜の山道を一人で走って行くことができました。

じいさまのやさしければいいんだ。という言葉が聞いてかわっていきけるでしょうか。

感想(おすすめる人に向けてメッセージ)

わたしもお母さんが病気になった時は、すごく心配して不安になったことがあります。おく病な豆太が大好きなじいさまを助けるために、こわい夜の道を走った場面では、すごく強い気持ちになったんだなあと思いました。豆太と同じような気持ちになった人は読んでみませんか。



本を選んだ理由を書かせたい。
○作者がいつしよだから
○家族のお話だから
○中心人物が魅力的だから
等

中心人物の設定や人柄について書かせたい。

中心人物の大きな変化について物語のはじめと終わりを比べてつかませたい。

自分の経験と合わせた感想を書かせたい。